



# 米

## 種子の準備を 行いましょう



初倉営農経済センター  
岡谷 武秀

水稲の育苗期には高温・多湿になるため、種子伝染病害が発生しやすくなります。種子伝染病害には、いもち病・ばか苗病・ごま葉枯病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病などがあります。発生してからでは遅く、未然に防ぐことが大事なので、種子消毒を必ず行いましょう。

### 《効果的な種子消毒法》 塩水選を行いましょう

塩水選とは、塩水の比重を利用して不良種子を取り除く方法です。種子を食塩水か硫酸水につけると、稔実が悪いもみは浮き、充実したもみは沈みます。素早くかき混ぜた後、浮いたもみやゴミを取り除き、沈んだもみを回収します。購入した種もみも実施しましょう。【表1】

### 水洗い・水切りを忘れずに

塩水選で沈んだもみは、流水で塩分を洗い流します。水洗い後は、手にべとつかない程度に水を切ります。

### 袋詰め

網袋は、薬液浸透効果を高めるため、7〜8分目程度とします。

### 種子消毒は適正に行いましょう

「テクリードCフロアブル（200倍）」で種子消毒します。同時に「スミチオン乳剤（1000倍）」を加え、イネシンガレセンチュウの防除を行います。種もみ10キロに対して消毒液20リットルを用意し、24時間浸漬します。【表2】

### 《消毒後の管理》

種子消毒をしたら、停滞水に3日間浸種を行い、酸素不足にならないよう水を交換して、

もう1日水に漬けます。コシヒカリは休眠性が長いので、注意が必要です。

催芽の温度は28℃〜30℃を守り、細菌病やばか苗病予防のため高温にならないようにしましょう。

播種量は催芽もみで1箱当りコシヒカリ150g、その他の品種180gとします。

※厚まきだと弱い苗や病気が出やすくなるので注意しましょう。

【表2】

種もみの量	4kg	10kg	20kg	40kg
水の量	8ℓ	20ℓ	40ℓ	80ℓ
テクリードC	40mℓ	100mℓ	200mℓ	400mℓ
スミチオン	8mℓ	20mℓ	40mℓ	80mℓ

【表1】

種別	うるち	もち
比重	1.10kg	1.06kg
並塩	1.55kg	0.90kg
硫酸	1.98kg	1.10kg